

## 学内での活動

### 1 広報戦略委員会（委員長）

これまで RCIC の内部機能であった広報委員会を、学内委員会と同等と位置付け、委員会メンバーの再編成および運営を行った。特に 2012 年度は、大学院単独としての再出発や新しい領域制導入など、大学運営やカリキュラムが大きく変わっており、それに必要な戦略的な広報を提案した。例えば、「新しいイアマス」の訴求を目的とし、大学パンフレット等の広報物の制作においてブランディング手法を取り入れた。また、Facebook や Twitter といったソーシャルメディアの活用や大学公式ウェブサイトのリニューアルに向けた準備など、ウェブ活用の強化を図った。さらに、メディア広報以外に、多様なステークホルダーとの関係構築のための広報がいかに重要であるかという認識が大学全体に浸透するよう努めた。入試やオープンハウスといった実行委員会においても広報委員長がメンバーとして参加し広報を強化するような組織づくりに貢献した。

### 2 i. Labo プロジェクト

これまで入江教授が中心としてすすめてきた地域連携活動（岩村町と美濃市）に参加し、より具体的な活動へと発展させた。恵那市岩村町では、毎月「いわむらをデザインする会議」にアドバイザーとして参加し、デザインや広報の視点から提案や支援を行った。主な成果として、岩村の元気な女性たちを組織した「せんしょ隊」が挙げられるが、構想提案からせんしょ隊グッズのデザイン（入江教授）までを一貫して行った。この活動については 2013 年に学会で報告をする。美濃では、「うだつのあがる町並み」の空き家を借りてイアマスの拠点とし、2013 年度からの本格的な活動の準備を行った。2012 年度は、新たに樽見鉄道と連携し、「たるてつプロジェクト」をスタートさせた。地元の特産（富有柿や織部焼など）を活用した「柿カフェトレイン」や、レーザーカッターで作成した組立て式ツリーや AR（拡張現実）による装飾を実装させた「クリスマス・トレイン」といった新しいローカル鉄道の活用で注目を集めた。また、ローカル鉄道との対する見方を変えるきっかけとなり、他のローカル線との連携につながった。

せんしょ隊グッズ

クリスマス・トレイン

### 3 個人研究プロジェクト

昨年度から行っている東日本大震災におけるコミュニティラジオ局の調査（トヨタ財団助成）を継続的に行った。既に被災地ほぼ全局でのフィールド調査を終えたが、復興が長期化する中で臨時災害 FM 局の役割や支援の在り方も変化していることから、さらに深いフィールド調査を実施した。

今年度から、新たに全国のコミュニティラジオの在り方についての調査研究（科学研究）を開始した。今年度は八重山や宮古、奄美諸島といった離島のコミュニティラジオ局でフィールド調査を実施した。これらの研究内容は 2013 年度の学会で発表を予定している。

あまみ FM（名瀬市末廣市場内スタジオ）

---

## 学外での社会活動（公的）

### 1 i. Labo

IAMAS LABO(イアマス)の学外活動としての i. Labo では、コミュニティの課題抽出を目的としたワールドカフェの実施、建築とコミュニティデザイン、コミュニティと小電力、コミュニティに開かれた新しい図書館など、コミュニティをテーマとしたフォーラムを毎月開催した。

i. Labo の様子

### 2 連携促進（RCIC）

RCIC の活動として、これまでの地域や産業連携の強化を図り、また、新しい連携づくりに取り組んだ。特に、岐阜県立森林文化アカデミーとの連携では、プロジェクトでの協力や、学生間交流などを行われた。また、岐阜経済大学や大垣女子短期大学といった地元大垣にある教育機関との連携を図り、学生による共同研究発表会や研究協力、IAMAS LABO への参加などがすすめられた。公益財団法人産業経済センターとイアマスとの連携強化もすすめられた。また、岐阜県内で取組まれている小電力発電についてフィールド調査を通して、明宝や石徹白などの地元 NPO 団体や地域再生機構、ぎふ NPO センターとの連携をすすめ、i. Labo のフォーラム活動などでも展開した。

石徹白での小水力発電視察

### 3 メディア露出

3.1.1 被災地に関するラジオ番組に出演した。主な番組は以下のとおり。

あまみエフエム ディ！ウェイヴ「夕方フレンド」生出演

(2013年3月6日放送分)

ラジオ石巻 特別番組「東日本大震災から学ぶラジオの活用」生出演

(2013年3月11日放送分)

陸前高田臨時災害FM 「美南の福幸ラジオ」出演

(2013年3月放送分)

あまみFMで出演